

論文要旨

1. 周 起丞（シュウ キジョウ・中国）

「話しことばにおける縮約形について —サンドウィッチマンのコントを例に—」

キーワード：縮約形、サンドウィッチマン、コント、話しことば

要旨：

日本語の話しことばにおいて、縮約形は頻繁に使用されているが、日本語教育では使用頻度の高い一部の縮約形が教科書の中で文法として説明されるだけである。それ以外の縮約形はほぼ言及されず、学習者は自ら縮約形の表現を理解し、その規則性を見出すことが必要とされる。日本語教育での説明不足にもかかわらず、縮約形はあらゆる場面で使用されており、特に日本の漫才・コントといった話芸の中にも頻繁に見られる。そこで、本稿では、縮約形の使用頻度が高いことが特徴であるサンドウィッチマンのコントを対象とし、映像資料から彼らのコントにおける縮約形を集計し、その使用実態と日本語教育との関係性を分析する。その結果、丁寧さを求める日本語教育では、全ての縮約形を取り上げるのは困難であることが明らかになった。

第 1 章では本稿に関係の深い先行研究を紹介する。第 2 章では本稿における縮約形の定義と分類を示し、調査資料の選定方法と集計方法について説明をする。最後に、第 3 章で、調査結果を図と表で分かりやすく示し、先行研究と比較した上で考察を行う。

2. チュアンスワニッチ, アンヤマニー（タイ）

「岐阜の地歌舞伎の魅力をタイ人に伝えたい —写真を用いたアンケート調査の実施—」

キーワード：地歌舞伎、岐阜、地域芸能、観光資源、タイ人の好み

要旨：

現在岐阜県は、外国人観光客を呼び込むために「地歌舞伎」を観光資源として活用している。2015 年から外国人向けの地歌舞伎公演が始まり、私は 2020 年に 1 月と 2 月に行われた地歌舞伎公演を観に行った。はじめて地歌舞伎を観て感動し、もし他のタイ人が地歌舞伎を観たらどう感じるか、どう思うかという疑問を持つようになった。

本論文では、地歌舞伎に関わる写真を用いたアンケート調査を行い、地歌舞伎に対するタイ人の好みを知ることを目的としている。対象者はタイのチェンマイ大学日本語学科の学生・教職員および一般のタイ人で、二つの写真のうち好きな写真を選んでもらったり、その理由を書いてももらったりした。その結果、地歌舞伎に関わる写真を見ることで、多くのタイ人が地歌舞伎を知るようになったことが明らかになった。また、日本語・日本文化がわかる人とわからない人の好みには共通点も相違点もあり、その理由を考察した。回答者のコメントは、今後の外国人向けの地歌舞伎公演に役立てることができると考える。そして、私は地歌舞伎の魅力をタイ人に伝えたいので、地歌舞伎の概要をタイ語で表した付録を作った。

3. プト, アンナマリア (ポーランド)

「外国人の視点から考えるアニメ聖地巡礼」

キーワード：アニメ聖地巡礼、観光企業、アニメ企業、地域コミュニティ、外国人

要旨：

私は日本学科の学生として、アニメ文化と日本観光の両方に強い関心を持っている。そのため、アニメ聖地巡礼というアニメに登場する場所を訪れることを研究テーマにした。アニメ聖地巡礼についての研究が多いが、外国人に焦点を当てた研究は非常に少ない。

そこで、本稿では外国人の視点を紹介し、アニメ聖地巡礼で外国人がしばしば疎隔されているという問題を提起する。最初に、日本人の視点から考えるアニメ聖地巡礼を説明し、今までどのような対応が国内でなされてきたか考える。次に、自分が訪れたアニメ聖地の体験を通して、アニメ聖地巡礼を分析する。最後に、集めた資料で外国人の視点について考察し、日本人の視点と比較する。

アニメ企業が急速に全世界に広がり、世界中のアニメ視聴者が急増しているため、アニメ聖地巡礼の外国人のための取り組みの必要があることを明らかにした。多言語対応とアクセスのしやすさがないと、外国人の視点からアニメ聖地が成功する可能性が低い。現在、日本はグローバル化を進めようとしているが、世界に対してどのような行為をするべきか、アニメ聖地巡礼についての研究を通して、その問題解決の糸口を示したい。

4. グスタフソン, ジェスパー (スウェーデン)

「ヴィーガニズム —脱動物利用主義—」

キーワード：ヴィーガニズム、脱動物利用主義、動物権利、動物権利活動

要旨：

ヴィーガニズム (Veganism) とは可能な限り食べ物・衣服・その他の目的のために、あらゆる形態の動物への残虐行為、搾取を取り入れない生き方である。脱動物利用主義と呼ばれることもある。このような生き方をする理由は、動物・環境・健康のためであるが、本論文は動物のための面を中心とする。

ヴィーガニズムは世界中に広がっている。欧米と比べて日本の広がりはまだ遅いが、進行しつつある。ヴィーガニズムと動物権利、動物権利活動をわかりやすい形で日本に紹介するためにこのテーマを選んだ。

本論文では、ヴィーガニズム、動物権利とそれに反する思想、動物権利活動、そして私の岐阜でのヴィーガン生活を紹介する。また、畜産業など動物を利用する産業についてのドキュメンタリー (DOMINION (2018)) の視聴を通して、観た人のヴィーガニズム・動物利用・動物権利活動への態度がどのように変わるかを調べた。ドキュメンタリーを観る前の対象者は、畜産実態 (飼育や屠殺など) の認識度が低く、ドキュメンタリーの内容に知らなかったことが多かったが、視聴後動物利用と食生活について考え直すという傾向を示した。

5. 付 麗蓓（フレイハイ・中国）

「観光戦略としての翻訳 ―長良川鵜飼事業における中国語翻訳を事例として―」

キーワード：観光、異文化コミュニケーションとしての翻訳、多言語化、中国語訳、長良川鵜飼
要旨：

観光は日本においては非常に重要な産業である。日本は外国人観光客を誘致するため、観光資源の多言語化に積極的に取り組んでおり、それに資する翻訳が不可欠なものである。中でも、近年、訪日中国人観光客の増加が続いており、適切な中国語翻訳の必要性が高まっている。しかし、翻訳は言語の転換だけではない。文化の違い・翻訳の目的・読み手の知識レベルなどを考える必要がある。いわば、翻訳を異文化間のコミュニケーションとして見なければならない。本論文は、異文化コミュニケーションとしての翻訳の視点から、国重要無形文化財である長良川鵜飼の全容をまとめた本である『長良川鵜飼再発見』（岐阜市発行）とその中国語翻訳版を比較して考察してみたい。

第1章は観光産業の重要性を指摘し、翻訳の必要性に言及する。第2章は岐阜市の多言語化施策について整理し、鵜飼の多言語化の現状を把握する。第3章は『長良川再発見』とその中国語翻訳版を比較し、長良川鵜飼の魅力を伝える翻訳についていくつかの提案を示す。

6. グエン、ティーツー ホアイ（ベトナム）

「ベトナムと日本の祖先崇拜 ―ベトナムの旧正月と日本の盆を中心に―」

キーワード：ベトナムと日本、祖先崇拜、旧正月と盆、祖先棚、儀式、供物
要旨：

「人は死後どうなるのか」という疑問に対して、この世に生きる私たちが実証的に解答を出すことは困難である。多くのベトナム人は人が死んでも「あの世」で霊魂が生き続けると考え、祖先を祀る習慣が今も続いている。日本人も、ベトナム人と同様の考え方をしている人が多いと知り、両国の「祖先崇拜」に興味を持ちはじめた。

本稿では、第1章では、まずベトナムの年中行事の構造から、祖先崇拜にとって旧正月が重要であること、次に、日本の年中行事の構造から、盆が重要であること、そして、ベトナムの旧正月と日本の盆を比較することの重要性を指摘する。第2章では、ベトナムについて、家族・親族組織と旧正月、儀式の流れ・祖先棚の設え・供物の内容を述べ、インタビューの結果を分析する。さらに、日本の正月儀礼と比較する。第3章では、日本について、祖霊と祖先崇拜の範囲と定義の確認、儀式の流れ・祖先棚の設え・供物の内容を述べ、インタビューの結果を分析する。さらに、ベトナムの盆儀礼と比較する。インタビューの結果から、ベトナムでは祖先崇拜の儀礼は今なお手厚く行われているが、日本では全体的に薄くなっていると分かった。